

5-4 パブリックフォーラム

5-4-1 パブリックフォーラム「アジア地域における総合防災政策と防災優良事例フォーラム～より安全な世界へ向けて、経験から共に学ぶ～」(第7回アジア防災センター国際会議)

- 1) 日時：2005年1月19日(水)
- 2) 場所：神戸国際会議場 301号室
- 3) 主催：アジア防災会議実行委員会
(アジア防災センター、兵庫県庁、UN/OCHA 神戸)
- 4) 参加者：210名(アジア地域を中心とする政府関係者、国際機関等)
- 5) プログラム内容
 - ① 開会挨拶 内閣府大臣官房審議官 原田正司
 - ② 基調講演(インド洋津波被害調査団報告含む)
アジア防災センター所長 北本政行
 - ③ UNESCO とアジア防災センターの協定書締結式
 - ・ 協定書締結および交換
 - ・ 挨拶 UNESCO 事務局長 松浦晃一郎
 - ・ 挨拶 アジア防災センター長 伊藤 滋
 - ④ スマトラ沖地震緊急報告
インドネシア政府防災担当局長 スゲング・トリウトモ氏
 - ⑤ 優良事例発表
コーディネーター：アジア防災センター エマニエル・グズマン
 - ・ バングラデシュ
食糧防災担当大臣 チャウドリ・カマル・イブネ・ユースフ
 - ・ フィリピン
国家防災会議事務局長 エルマ・コルシノ・アルデア
 - ・ ラオス
社会福祉省人材育成担当部長 ビライポン・シソバン
 - ・ 中国
国家減災センター研究員 ユアン・イー
 - ・ タジキスタン
非常事態省第一次官 ラジャボフ・アブドゥラヒム
 - ・ セッションまとめ
アジア防災センター エマニエル・グズマン
 - ⑥ 閉会挨拶 アジア防災センター所長 北本 政行
- 6) 結果概要
国連防災世界会議のパブリフォーラムの一つとして、アジア防災センター(ADRC)

は、アジア防災会議 2005 実行委員会(兵庫県、UN/OCHA 神戸、ADRC)との共催により、パブリックフォーラム「アジア地域における総合防災政策と防災優良事例フォーラム～より安全な世界へ向けて、経験から共に学ぶ～」(第7回アジア防災センター国際会議)を2005年1月19日、神戸国際会議場301号室にて開催し、国内外から210名の参加者があった。

これは、国連防災世界会議のパブリックフォーラムとして開催したもので、アジア地域における災害リスクや脆弱性を軽減する方策について、アジア5カ国(バングラデシュ、フィリピン、ラオス、中国、タジキスタン)の防災優良事例を紹介しながら議論を進めた。

当日は、この防災優良事例の発表の他に、スマトラ島沖地震と津波に関する緊急報告も行われた。発表者のインドネシア政府防災担当トリウトモ局長は、今回の災害により、大規模災害に対する国際社会の協力・連携の必要性や長期的な災害予防の重要性について再認識したと述べた。

5-4-2 アジア防災 NGO ワークショップ

1) テーマ

「アジア防災 NGO の活動 —アジア各国での取り組みとパートナーシップの重要性—」

2) 趣旨

現在、防災や災害対応には数多くの人々や機関が携わっている。しかし、その協力体制は十分確立されておらず、いかにパートナーシップを強化していくかが大きな課題となっている。防災や災害対応がより効果的なものとなるために、地域的なネットワーク作りは非常に重要である。当ワークショップでは、アジア各国の NGO が取り組んでいる地震や洪水などの災害対策の実例を紹介し、それらの例から学ぶことのできる教訓、各個人や機関が災害による被害を軽減するために果たすべき役割、パートナーシップの強化の重要性について討論した。

3) 開催日

平成 17 年 1 月 22 日 (土)

4) 場所

神戸国際会議場

5) 主催

アジア防災・災害救援ネットワーク (ADRRN)

6) 共催

アジア防災センター、国連人道問題調整事務所(OCHA)神戸

7) プログラム

(1) 開会あいさつ：アジア防災センター所長 北本政行

(2) 事例発表

① アジアにおける防災・災害対応：ネットワークの重要性

MERCY マレーシア代表 ジャミラ・マウモッド

② 総合的な防災政策による効果的な災害対応：政府、国際機関、市民に課せられた課題

ALERT (フィリピン) 副代表 エマニュエル・ドゥグズマン

③ 阪神淡路大震災 –その後の10年と教訓–

横浜 YMCA 地域・国際事業チーフディレクター 大江 浩

④ ネパールにおける地震災害軽減のためのネットワーク

NSET (ネパール) 所長 アモッド・ディキシット

⑤ 知識と実践のギャップをなくす

SEEDS (インド) 代表 マニユ・グプタ

⑥ 災害時のコミュニティー参加 –スリランカの事例–

Sarvodaya (スリランカ) 代表 ビンヤ・アリヤラトン

(3) パネルディスカッション / Q&A

(4) 閉会式 : OCHA 神戸代表 テリエ・スカブダル

8) ワークショップの成果

2003年12月から本格的に活動推進に取り組み始めたアジア防災・災害救援ネットワーク (ADRRN) のメンバーである各国 NGO からの災害被害軽減のためのさまざまな取組みが紹介され、またネットワークやパートナーシップの強化の必要性について聴講者も参加して活発な議論が交わされた。

議論を通してすべての参加者は、ネットワークの中でさまざまな教訓、知識、リソースの共有を推進することがより効果的な防災への取組みにつながるということについて合意し、小さな組織であってもネットワークを通して、ある分野においてより多くの経験を持つ他のメンバーから豊富な知見やサポートを得ることができること、それぞれの得意分野を活かして協力することにより、より効果的な活動ができることなどについて認識を深めた。

一方、ネットワークを維持していくためには課題も多いことも再認識された。メンバーの恒常的なネットワークへの関与、継続的なネットワーク活動を推進するためには、定期会合を開催するなど必要であるが、そのためには安定した資金の確保が必要である。ネットワークを拡大していくにあたっては、この点について明確な仕組みを考えていく必要があることが確認された。



図 5-4-2-1 ワークショップの様子